

みんな Zoo っと「学びたい!!」

**おびひろ動物園の
魅力アップに向けて（方針）**



令和2年 3月

帯広市教育委員会

目次

1	はじめに	1
2	位置付け	1
3	実施期間	1
4	おびひろ動物園の現状と課題	1
5	魅力アップの取り組みについて（五本の柱）	
	（1）十勝おびひろの特色を活かした展示	3
	（2）地域に根ざした学習機会の提供	4
	（3）全ての人にやさしい施設整備	6
	（4）食の充実	7
	（5）企業等との連携・協働	8

参考資料

- 1 魅力アップイメージ図
- 2 おびひろ動物園魅力アップ検討委員会名簿
- 3 おびひろ動物園魅力アップ検討委員会 検討経過
- 4 おびひろ動物園魅力アップ検討委員会 検討概要

1 はじめに

おびひろ動物園は昭和 38 年の開園以来、ゾウやキリンなどの大型動物から、ふれあいのできる小動物までを展示し、管内唯一の大型遊具を併設する総合動物園として、現在も年間およそ 17 万人の入園者が訪れる十勝の人気スポットとして地域に定着しています。

一方、時代の変化に伴い、施設の老朽化や動物福祉への対応など動物園が抱える課題は多様化しており、今後は利用者のニーズを的確に見定めながら果たすべき役割を改めて整理し、効果的な整備や運営のあり方等を問い直しながら、魅力アップに継続的に取り組んでいく視点が益々重要になっています。

このため、平成 30 年度に「おびひろ動物園魅力アップ検討委員会」を設置し、今後の取り組みの方向性について議論してきました。

これまでの検討経過を踏まえ、将来にわたり多くの方々から愛される地域の公共財産として継承していくため、この方針を定めるものです。

2 位置付け

この方針は、帯広市教育基本計画を踏まえ、おびひろ動物園の魅力アップのための考え方や取り組みを示すものとして位置付けます。

なお、老朽化した施設や大型遊具などの更新・整備については、中長期にわたり取り組む必要があるため、本方針との整合性に留意しつつ、帯広市公共施設マネジメント計画や個別施設計画等に基づき別途対応することとします。

3 実施期間

この方針の期間は、令和 2 年から令和 11 年までの 10 年間とし、必要に応じ適宜見直します。

4 おびひろ動物園の現状と課題

おびひろ動物園は緑ヶ丘公園内に位置し、帯広市の中心市街地にも近くアクセスのしやすさに加え、管内唯一の大型遊具を併設しており、年間の来場者数は約 17 万人で推移し、帯広市の観光資源としての役割も果たしています。(図 1)

かつての動物園の役割は、レクリエーションが主体でしたが、現在は、環境・情操教育や種の保存なども重要な役割となっています。また、動物が快適に暮らせるよう飼育環境を改善するなど、動物福祉への配慮が必須となってきています。

おびひろ動物園では、博物館相当施設（※）として教育事業に力を入れており、特に低年齢対象のふれあい教室は、市内および管内の多くの幼児や児童の受け入れを行ってきています。（図2）

一方で、動物種の減少や展示個体の高齢化が進んでおり、獣舎などの飼育環境のあり方や地域特性、他園との差別化などの幅広い視点を踏まえ、今後の当園での飼育に適した動物種を維持・導入していくことが必要となっています。（表1）

※博物館相当施設：博物館の事業に類する事業を行う施設で、当該施設の所在する都道府県の教育委員会が、文部科学省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定した施設。

図1

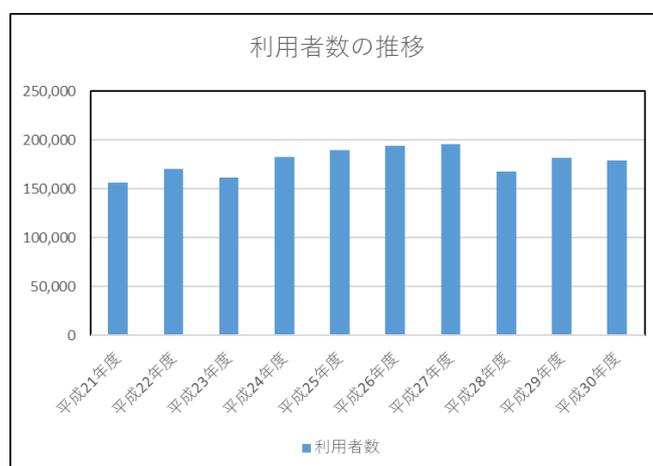


図2

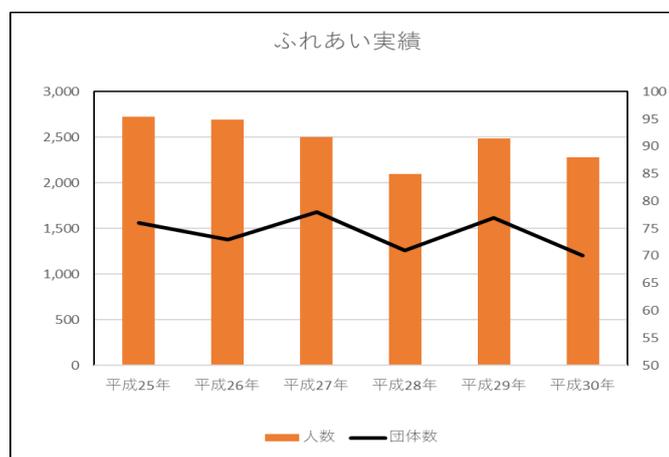


表1

飼育継続種	現年齢	飼育下平均寿命	暫定残飼育年数	獣舎建築経過年数	現飼育動物が寿命まで生きた時の獣舎建築経過年数
ライオン	5	20	15	52	67
アムールトラ	9	20	11	41	52
アミメキリン	5	20	15	48	63
チャップマンシマウマ	3	20	17		
ホッキョクグマ	8	24	16	37	53
ゴマフアザラシ	26	30	4	37	41
ゾウ舎（新規個体は獣舎が古く導入不可）				55	58
カバ舎（新規個体は獣舎が古く導入不可）				47	

5 魅力アップの取り組みについて（五本の柱）

あらゆる世代の方々に生涯にわたり“学びたい”と思えるような魅力的な空間と時間を提供していくため、次の五本の柱による取り組みを進めます。

（1）十勝おびひろの特色を活かした展示

十勝の自然に生きる動物や厳冬期の気候、地域の特徴を活かした独自性のある展示に取り組みます。

ア 寒冷地および地域の野生動物の展示充実



寒冷地に生息する動物を中心に生き生きとした姿で展示できるよう、飼育展示する動物種・頭数の計画的な管理や、雪や氷を効果的に用いた飼育環境の改善などを進めます。

また、国内の動物園と協力して希少種の繁殖に取り組み、種の保存や保全活動に貢献します。

イ 十勝らしい家畜の展示充実

十勝の歴史・文化になじみ深い家畜を導入するなど、家畜を通しての地域理解の促進や、教育事業での活用を進めます。

(2) 地域に根ざした学習機会の提供

地域資源を活かしたふれあい体験や環境教育などを通じ、地域理解を促進するとともに、優しさや思いやり、自然を大切に作る心などを育む場や学習機会を提供します。

ア 家畜とのふれあい体験の充実

参加者の安全と衛生、教育効果および動物福祉などに十分に配慮しながら、家畜を活用した、ふれあい体験の充実を図ります。



イ 関係機関との連携

帯広畜産大学や社会教育施設、教育機関との連携・協力関係を強め、地域資源や人材の活用を図りながら、環境教育の機会提供や、動物に関する調査・研究に取り組みます。

また、学校と連携し、授業で活用できる教育プログラムの開発を進めます。

ウ 情報発信・学習効果の向上

SNSやブログなど時代に合った効果的な情報発信手段を活用し、多くの利用者に関わりやすくタイムリーに情報を届け、動物への関心や学習意欲の向上を図ります。

また、音声や映像を使った情報提供や展示の工夫、QRコードなどインターネットを介した解説等で学習効果の向上に取り組みます。



エ ボランティアとの連携

ボランティアとの連携により、動物とのふれあい補助や解説、園内ガイドなど、学習機会の充実と来園者満足度の向上を目指します。

オ 動物園を活用した再生可能エネルギーの啓発

バイオマスなど地域資源を活用した再生可能エネルギー機器の実証試験への協力などを通し、循環型・環境保全型の地域づくりの啓発に努めます。

(3) 全ての人にやさしい施設整備

誰もが安心して動物園を楽しめるよう、ユニバーサルデザイン（以下 UD）の理念に基づいた施設づくりに取り組みます。



ア 園路の整備

ベビーカーや車椅子の利用者などに十分配慮し、凹凸や亀裂のない園路や、天候に左右されずに歩きやすく滑りにくい園路など、安全で快適な環境整備を進めます。

イ トイレ・休憩所等の整備

利用者の動線や需要に応じた子供用トイレ、休憩室、授乳室、おむつ替えスペースなどの機能を備えた設備の充実を図ります。

ウ やさしい施設整備

冬季間においても入園者が快適に動物の観察が楽しめる工夫のほか、わかりやすい園内施設の案内標示・看板の設置、周辺道路における駐車場案内板の改善を図ります。また、全ての利用者の利便性に配慮し、既存駐車場の配置の見直しを行います。

(4) 食の充実

飲食サービスの充実を図り、利用者の満足度向上とともに、十勝の食のPRにつなげていきます。



飲食サービスの充実

利用客の多い土日祝日等を中心に、キッチンカーなど臨時的な飲食事業者を導入し、サービスの充実と利用者の満足度向上を図ります。

メニューの提供にあたっては、十勝産の食材を使った地産地消の取り組みや、動物園ならではのメニュー開発を進めます。

(5) 企業等との連携・協働

企業や団体などと連携・協働し、社会貢献活動の場のほか、動物園の新たな利活用の可能性を広げ、魅力向上につなげます。

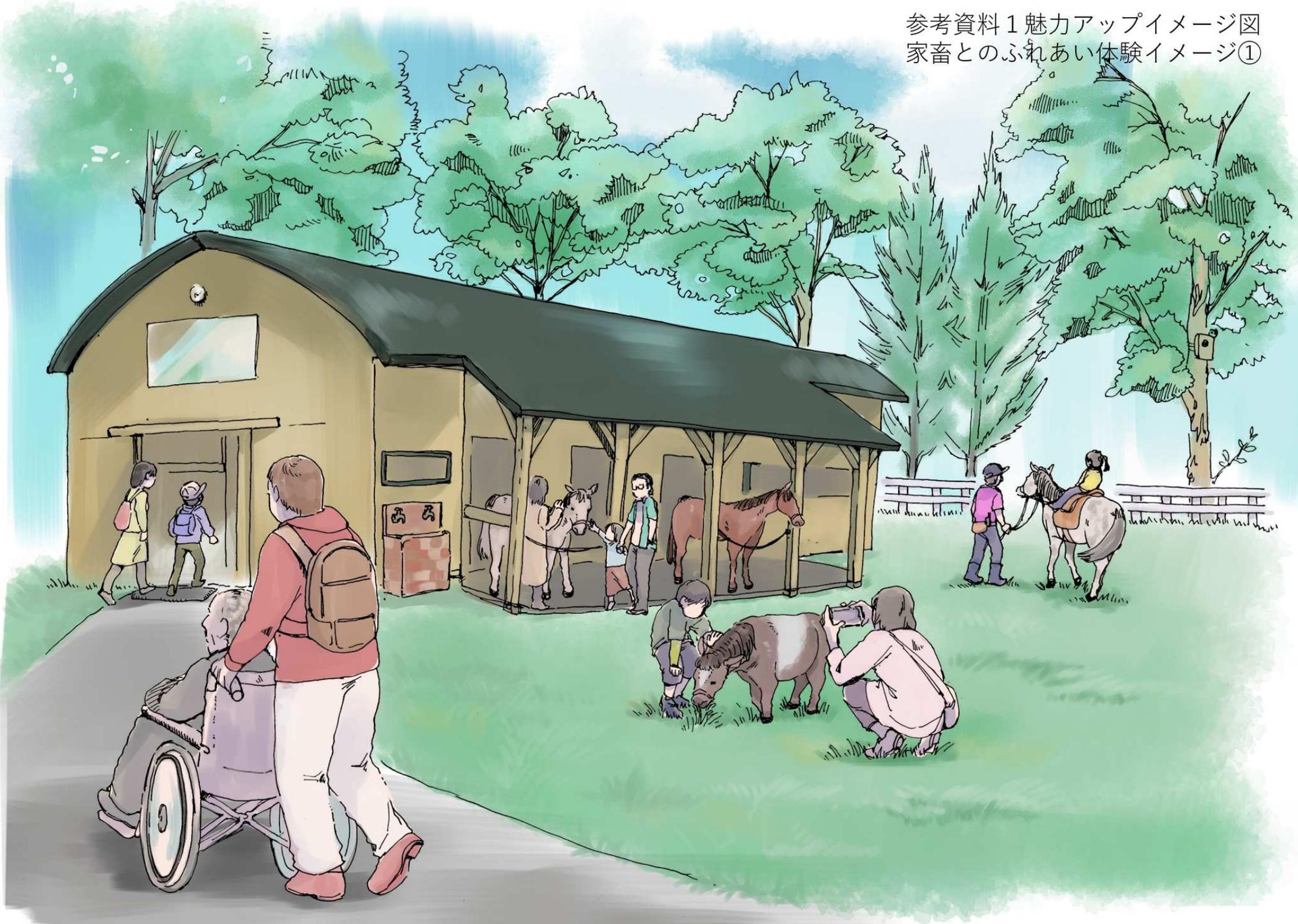


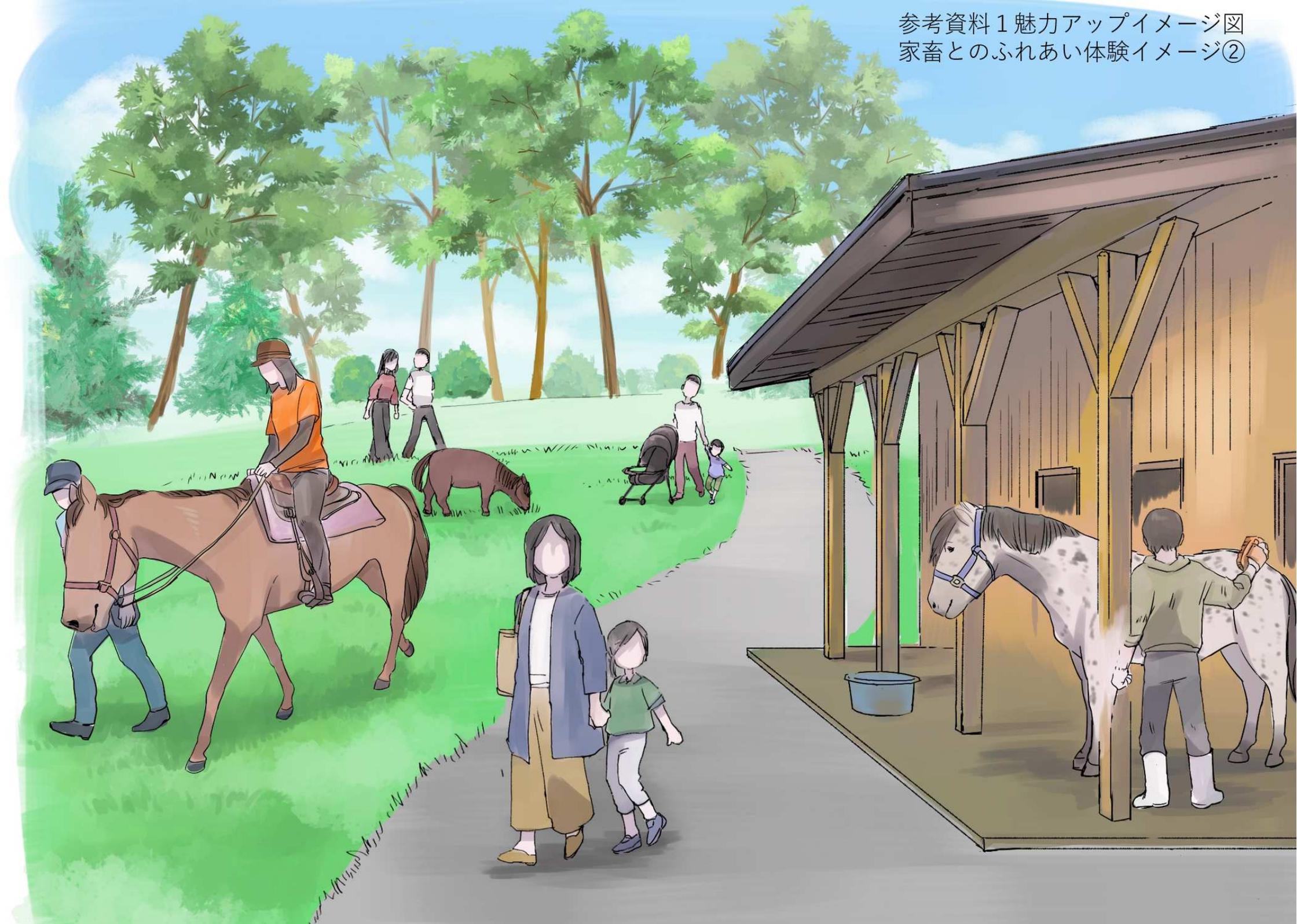
園の利活用や施設整備支援・寄付

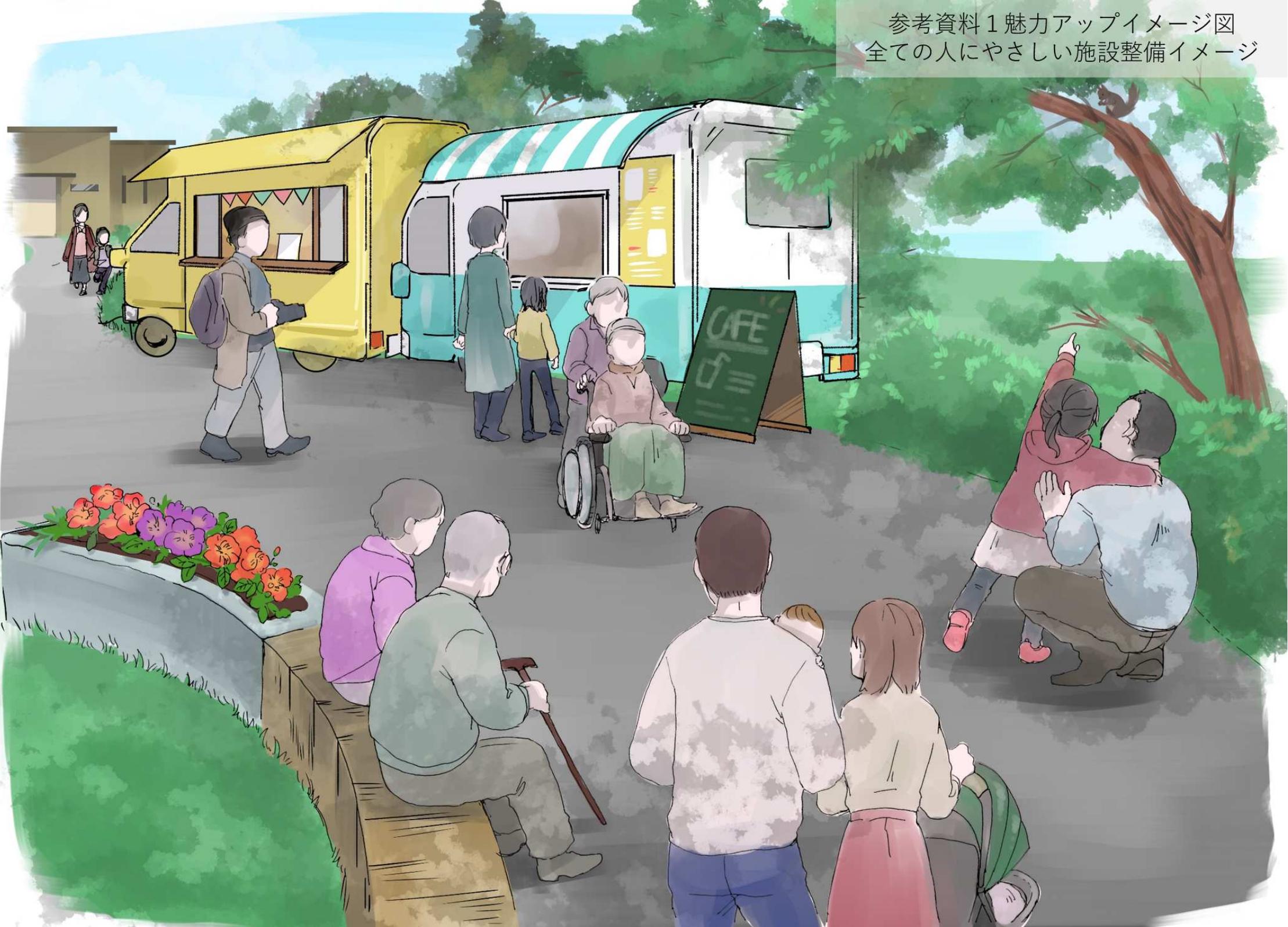
売店等の営業施設の設置や限定みやげ品の開発・販売、協働イベントの開催など、企業や団体による動物園の幅広い利活用を促進します。

また、施設整備支援や寄付などを積極的に呼びかけるほか、オフィシャルグッズ等の販売収益の一部寄付など、新たな仕組みづくりについて検討します。

参考資料1 魅力アップイメージ図
家畜とのふれあい体験イメージ①







おびひろ動物園魅力アップ検討委員会名簿

	氏名		所属等
専門委員	梅村 明	ウメムラ アキラ	十勝観光連盟 事務局長
	坂本 芳美	サカモト ヨシミ	帯広明るい社会づくり運動 副会長
	高橋 弘史	タカハシ ヒロフミ	帯広市PTA連合会 会長
	柳川 久	ヤナガワ ヒサシ	帯広畜産大学 理事・副学長
	矢野 充	ヤノ ミツル	十勝私立幼稚園連合会 副会長(帯広わかば幼稚園 園長)
市関係課職員	板倉 智幸	イタクラ トモユキ	障害福祉課 課長補佐
	伊藤 彩子	イトウ アヤコ	帯広百年記念館 学芸活動係 主任
	片山 剛	カタヤマ ツヨシ	学校教育指導室 指導主事
	國枝 克彦	クニエダ カツヒコ	みどりの課 整備係長
	小林 伸行	コバヤシ ノブユキ	環境都市推進課 課長
	柴山 英介	シバヤマ エイスケ	観光課 観光振興係 係長
	島田 猛	シマダ タケシ	生涯学習課 生涯学習推進係長
	清水 裕貴	シミズ ユウキ	児童会館 こども科学係 主任補
	西尾 達也	ニシオ タツヤ	企画課 課長
八鍬 瑞恵	ヤクワ ミズエ	帯広保育所 主査	

事務局

おびひろ動物園	柚原 和敏	ユハラ カズトシ	動物園 園長
	杉本 美紀	スギモト ミキ	動物園 副園長
	立崎 留美子	タチザキ ルミコ	動物園 管理係長
	富川 創平	トミカワ ソウヘイ	動物園 飼育展示係 主任
	片桐 奈月	カタギリ ナツキ	動物園 飼育展示係 主任補
	中山 大志	ナカヤマ タイシ	動物園 飼育展示係 係員

おびひろ動物園魅力アップ検討委員会 検討経過

第1回検討委員会 (作業部会)	日時 平成30年8月23日(木) 13:30～ 会場 おびひろ動物園 動物園センター 参加人数 庁内関係課11名 事務局7名 議題 検討委員会の目的とゴールの確認 内容 園内視察(現状・問題点の確認)・意見収集
第2回検討委員会 (作業部会)	日時 平成30年10月30日(火) 13:15～ 会場 帯広市役所 教育委員会室 参加人数 庁内関係課11名 事務局6名 議題 動物園としての考え方について(園内職員アンケート等の説明) 内容 魅力アップ概要・方向性について議論
第3回検討委員会 (拡大委員会)	日時 平成30年11月29日(木) 13:30～ 会場 おびひろ動物園 動物園センター 参加人数 専門委員5名 庁内関係課10名 事務局6名 議題 専門委員への経過説明及び意見収集 内容 報告案(たたき台)の説明・フォーラムアンケート検討
おびひろ動物園の 魅力アップを考える フォーラム (市民対象)	日時 平成31年1月26日(土) 13:30～ 会場 とかちプラザ 視聴覚室 参加人数 113名 内容 旭山動物園園長講演「北海道の動物園・水族館にできること」 検討委員会経過報告、道内4園館長によるパネルトーク
第4回検討委員会 (拡大委員会)	日時 平成31年2月26日(火) 13:30～ 会場 帯広市役所 教育委員会室 参加人数 専門委員4名 庁内関係課9名 事務局5名 議題 フォーラム・アンケート結果報告 内容 報告素案について議論
第5回検討委員会 (拡大委員会)	日時 平成31年3月19日(火) 13:30～ 会場 帯広市役所 教育委員会室 参加人数 専門委員2名 庁内関係課9名 事務局6名 議題 報告最終案について 内容 最終案の確認

おびひろ動物園魅力アップ検討委員会 検討概要

取り組みの方向性（案）

おびひろ動物園の魅力づくり(5本の柱)

十勝おびひろの特色を活かした展示

地域に根ざした学習機会の提供

子育て世代と高齢者にやさしい施設整備

十勝らしい食の充実

企業との連携・協働

寒冷地に生息する動物の展示

- ・本来の生息地と近い状態で飼育展示できる
- ・動物の負担軽減
- ・動物の飼育環境改善と福祉の取り組み

地域性のある動物の展示

- ・十勝の特色を活かした独自の魅力開発
- ・地元で生息する野生動物、地域の産業や歴史・文化にゆかりのある家畜の展示
- ・自然と共存する姿勢をはぐくむ

家畜動物の展示とふれあいの充実

- ・馬、牛、豚などの家畜の飼育
- ・ふれあい体験は情操教育の場



施設連携のさらなる充実

- ・帯広畜産大学や近隣の社会教育施設とのさらなる連携・提供

環境に配慮した展示施設

- ・再エネ・省エネ技術を導入した施設の整備



園路の整備

- ・子育て世代や高齢者にとってやさしい園路
- ・転倒防止、疲労軽減

トイレ・休憩所等の整備

- ・全てのトイレのユニバーサルデザイン化
- ・休憩所や授乳室、おむつ替えシートの設置



十勝らしい食の充実

- ・飲食サービスの充実
 - キッチンカーの導入やカフェの新設等
- ・十勝帯広らしいメニューの提供による、地域振興及び食育の取り組み



企業との連携・協働

- ・企業との連携・協働による整備

●生涯学習の推進

- ・教育委員会所管及び博物館相当施設として、本物の生き物とのふれあい体験から、家族や友人とのつながり、優しさや思いやりの心をはぐくむ場の提供
- ・帯広畜産大学や近隣の社会教育施設とのさらなる連携

●まちなかの憩い・交流・レクリエーションの場

- ・立地条件の良さ
- ・自然豊かな緑ヶ丘公園内に設置

●地域特性の紹介と学習・観光への導き

- ・地域の自然環境や文化についても学習できる場
- ・情報発信の強化
- ・観光で訪れた人が十勝への関心を深める入口としての役割

●市民・企業が貢献・活躍できる場

- ・寄付や奉仕、ボランティアに支えられている
- ・運営を支える企業との連携を進める

おびひろ動物園に求められる機能・役割・可能性